

知ってるようで使えない“あいまいな言葉

完璧に 使いこなしたい



日本語

立教大学名誉教授

宇野義方 [監修]

日本語倶楽部 [著]

完璧に

使いこなしたい

日本語

立教大学名誉教授
宇野義方〔監修〕
日本語倶楽部〔著〕

知ってるようで使えない“あいまい”な言葉



完璧に使いこなしたい日本語

二〇〇三年五月一〇日 初版印刷
二〇〇三年五月三〇日 初版発行

著者——日本語倶楽部

監修者——宇野義方

発行者——若森繁男

発行所——株式会社 河出書房新社

東京都渋谷区千駄ヶ谷二・三・二二 郵便番号一五一一〇〇五一

電話（〇三）三四〇四一二〇（営業）

<http://www.kawade.co.jp/>

企画・編集——株式会社 夢の設計社

東京都新宿区山吹町二六一 郵便番号一六二一〇八〇一

電話（〇三）三二六七七八五一（編集）

印刷・製本——中央精版印刷株式会社

© Nihongo Club 2003 Printed in Japan
ISBN 4-309-01550-6

定価はカバー・帯に表示してあります。落丁・乱丁本はお取替えいたしません。
本書の無断複製（コピー）は著作権法上での例外を除いて禁止されています。

宇野義方……うのよし方

1919年、東京生まれ。47年、東京帝国大学文学部国文学科卒業。国立国語研究所員を経て、56年、立教大学文学部助教授、63年、同大学教授。現在、同大学名誉教授、共立女子短期大学特任教授。専攻は国語学。敬語、コミュニケーション論など、生活言語の研究にたずさわり、ビジネスや日常における手紙のマナーにも詳しい。著書に、『敬語は恐い』『敬語をどのように考えるか』『使っていない』『日本語』（監修・小社刊）などがある。

日本語倶楽部

日本語に関して、語源、字源、漢字、敬語などさまざまな興味深いテーマを探索・発表しているグループ。学界とは異なるユニークな探究を柔軟な発想でおこなうことを得意としている。作品には『そんな言葉つかいでは恥をかく』『日本語の謎にズバリ！答える本①②』『使ってはいけない日本語』『知れば知るほど面白い』『シリーズの『語源』『漢字の謎』ことわざ』（小社刊）などがある。

完璧に
使いこなしたい
日本語

はつきりわからなかった日本語も
これで自由自在／——前書き

日本語には、美しい言葉、豊かな表現、気のきいた言い回しがたくさんあります。また、中国の故事に由来する四字熟語や成句、昔の日本の庶民の暮らしのなかから生まれたことわざなどには、古人の豊かな人生の知恵が盛り込まれています。

しかし、これらのちよつと使いたくなる言葉ほど、意味やニュアンスが微妙で、正しく理解していないまま、あいまいに使っていることが多いものです。これらの言葉は、使い誤るとたちまち変な日本語になってしまうもの。以下の五つの短文は、いずれも微妙に使い間違えた日本語です。どこがどうおかしいか、おわかりでしょうか？

- ① 「彼は食べ物にいきたくない」
- ② 「砂を噛むように苦しい思いをした」
- ③ 「彼女はまんじりともせず公判を傍聴していた」
- ④ 「彼はほうほうの体で走り去った」
- ⑤ 「私は彼女に首つ引きだ」

たとえば、①は「いきたくない」の使い方が間違っています。これは「寝穢い」と書き、寝

姿が見苦しいことで、食べ物に「意地汚い」ことではありません。

ほかの言葉はどがどう間違っているかわかりますか。これらの言葉の正しい使い方については、本文でくわしく解説しましょう。

また、こんなはつきりした誤用をすることはなくとも、どこか意味がはつきりしない日本語は数多くあるもの。たとえば、「手をこまぬく」を「傍観する」という意味だとわかってはいても、具体的に手をどうすることか、知っている人は少ないでしょう。これは、左右の手を胸の前で組むこと。ようするに、腕組みのポーズです。そこから、傍観するという意味が生まれたわけです。

書き方や読み方にしても、日本語は難しい。たとえば、あなたは「鰭」と「鮮」、「予言」と「預言」を正しく使い分けられますか。また、「世論」は「せろん」と読むのと「よろん」と読むのと、どちらが正しいのでしょうか。

この本では、これらの使いたくとも使えなかった日本語、はつきり意味がわからずあいまいなままに使っていた日本語を数多く集めて、正しい意味、正しい使い方をわかりやすく説きました。この一冊で日本語の豊かな表現力と正確な知識が身につき、気のきいた言葉を思うぞんぶん使いこなせるようになるはずです。

一章——「どんな状態」なのか

はつきり知りたい日本語

●例えば「あられもない」ってどんな様子なの？

おこがましい	15	渋皮が剥ける	24	しゃらくさい	33
いぎたない	15	小気味よい	24	ぎょうぎょうしい	34
おぼつかない	16	しどけない	25	蜘蛛の子を散らす	34
あられもない	16	たおやか	26	うろんな	35
ぞつとしない	17	紅葉を散らす	26	曲がない	36
しよさいない	18	けれん味のない	27	尻がこそばゆい	36
砂を噛む	18	るつぽと化する	28	キナ臭い	37
臆面もなく	19	芋を洗うような	28	線香花火のような	38
灰汁が抜ける	20	肌に粟が生じる	29	平蜘蛛のような	38
油紙に火のついたよう	20	のびきならない	30	いたちごっこ	39
ほうほうの体	21	絹を裂くような	30	牛のよだれのような	40
足元から鳥が立つ	22	したり顔	31	かしこ	40
突拍子もない	22	ひっそりかんとする	32		
よんどころない	23	薄紙を剥ぐよう	32		

二章——どういう「行動」なのか

きちんと理解したい日本語

●例えば「ねんごろになる」って具体的にどうなること？

手をごまぬく	43	おくびにも出さない	52	衣鉢を継ぐ	61
まんじりともしない	43	おもねる	52	習性となる	62
しなをつくる	44	秋波を送る	53	掌を返す	62
身につまされる	44	眉毛を読まれる	54	思案投げ首	63
物色する	45	首つ引きになる	54	やぶさかではない	64
ねんごろになる	46	ためつすがめつ	55	口吻を洩らす	64
眉を顰める	46	勿体をつける	56	算を乱す	65
おためごかし	47	涙を振るう	56	半畳を入れる	66
もとの	48	かんがみる	57		
相好を崩す	48	瞳を凝らす	58		
鼻薬を嗅がせる	49	おうむ返し	58		
色めき立つ	50	そぞろ歩き	59		
悪びれない	50	あみだにかぶる	60		
小鼻をうごめかす	51	目をしばたたく	60		



うまく使えろと

一 目置かれる日本語

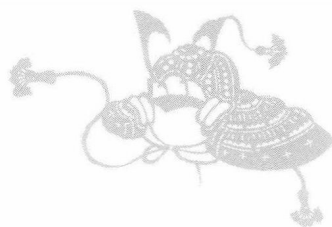
● 例えは「そこはかとなく」をサラリと言いたい

おめおめと
そこはかとなく
つとに
つらつら
るる述べる
なかんずく
やおら
つぎに
つつがない
めんめんと
ゆめゆめ
さやか
金輪際
千々に

69 69 70 70 71 72 72 73 74 74 75 76 76 77

わらない
時しもあれ
はしなくも
ゆくりなく

78 79 80



四章

どんな「モノ・コト」なのか
しっかり把握したい日本語

●例えば「際物」って一体どんなモノのこと？

噴飯物
正念場
こぬか雨
老婆心
挽歌
印ばかりのもの
木の芽時
しぐれ
しもた屋
東屋
目の薬
際物
総花式
つづら折り

83 83 84 84 85 86 86 87 88 88 89 90 90 91

大時代
金看板
俗耳に入りやすい話
社会の木鐸
無間地獄
送り梅雨
しのつく雨
小正月
暮れ六つ
麦の秋
市松模様
胸突き八丁
野分
小半時

92 92 93 94 94 95 96 96 97 98 98 99 100 100

浅葱色
青毛の馬
雨夜の品定め
菜種梅雨
菜籠中の物
丑三つとき
危な絵
歌枕
三隣亡
狐の嫁入り
刺し身のつま
尾籠な話
さざれ石
ところてん式

101 102 102 103 104 104 105 106 106 107 108 108 109 110

どういう「人」なのか

今さらながら知りたい日本語

●例えば「いなせな男」はどんな男性を指す？

妙齡の女性	113	瓜実顔	121
口さがない	113	小股の切れ上がった女	122
いかもの食い	114	月下氷人	122
岳父	114	狂言回し	123
猪口才	115	如才ない	124
いなせな男	116	芳紀	124
唐変木	116	領袖	125
権柄づく	117	碩学	126
すこぶるつきの美人	118	富士額	126
一言居士	118	辛党	127
閨秀	119	蒲柳の質	128
マツチポンプ	120	具眼	128
柳腰	120		

第六章

意味を正確に

とらえ直したい熟語

●例えば「斟酌する」って実際にはどうすること？

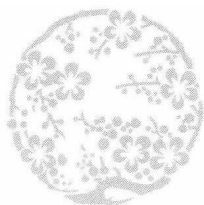
「糊塗」する
「暗々裡」に
「斟酌」する
「誰何」する
「私淑」する
「忖度」する
「鼎立」状態
「拘泥」する
「標榜」する
「敷衍」する
「容喙」する
「収斂」する
「禪讓」する

131 132 133 134 135 136 137 138 138

「仄聞」する
「睥睨」する
椿事
「辣腕」を振るう
「屹立」する
「無聊」をかこう
「遺憾」に思う
事大主義
「闊歩」する
「腐心」する
「稟議」を回す
「中傷」する
「割愛」する

139 140 140 141 142 142 143 144 145 146 146 147

「善処」する
「漆黑」の闇
望蜀
超弩級
「上梓」する
余生
鶴的



148 149 150 151 152

七章

使い方をもう一度

復習したい決まり文句

●例えば「春秋に富む」を巧みに使いこなすには…

病膏肓に入る
画竜点睛を欠く
海千山千
好事魔多し
大台に乗る
柳眉を逆立てる
袖振り合うも他生の縁
落花狼藉
烏有に帰す
木に竹を接ぐ
薬石効なく
塞翁が馬
白河夜船

155 156 157 158 159 160 161 162

天地無用
どんぐりの背比べ
提灯に釣り鐘
灯台もと暗し
竈の下の灰まで
梅檀は双葉より芳し
錦上花を添える
春秋に富む
兄たり難く弟たり難し
惻隠の情
氷炭相容れず
明鏡止水
多岐亡羊

163 164 165 166 167 168 169 170 171

この親にしてこの子あり
筒井筒の仲
いすかのはし
嘖嘖
落花流水



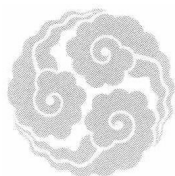
172 173 174

八章 「違い」を知って

適切に使い分けたい日本語

●例えば「油」と「脂」の正しい書き分けとは

「鮭」と「鮮」	177	「髭」と「鬚」と「髻」	185	「利口」と「利巧」	194
「伯父」と「叔父」と「小父」	177	「野生」と「野性」	186	「祝日」と「祭日」	194
「予言」と「預言」	178	「前人未到」と「前人未踏」	186	「採決」と「裁決」	195
「脂」と「油」	178	「謀反」と「謀叛」	187	「精算」と「清算」	196
「玉」と「球」と「弾」	179	「皮」と「革」	188	「侃侃諤諤」と「喧喧囂囂」	196
「産む」と「生む」	180	「陰」と「影」	188	「侃侃諤諤」と「喧喧囂囂」	197
「なおざり」と「おざなり」	180	「羽」と「羽根」	189	「中山道」と「中仙道」	197
「樹」と「木」	181	「食料」と「食糧」	190	「辞典」と「事典」と「字典」	198
「足」と「脚」	182	「お先棒をかつぐ」と「片棒をかつぐ」	190		
「及び腰」と「へつぱり腰」	182	「飛ぶ」と「跳ぶ」	191		
「船」と「舟」	183	「活を入れる」と「喝を入れる」	192		
「早い」と「速い」	184	「交代」と「交替」	192		
「作る」と「造る」	184	「干物」と「乾物」	193		



九章

あいまいだった「読み方」を

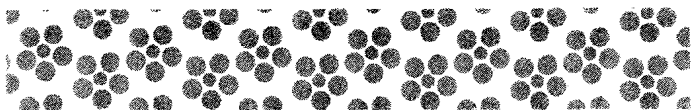
間違はなく覚えたい日本語

●例えば「農作物」を「のうさくもつ」と読んだら笑われた

世論	201	開眼	207
博士	201	堪能	208
御用達	202	停留所	208
農作物	202	早急	209
大地震	203	宝物殿	210
日本	204	二人組	210
お手数	204	続柄	211
発足	205	情緒	212
初孫	206	前半	212
町	206		

212 212 211 210 210 209 208 208 207

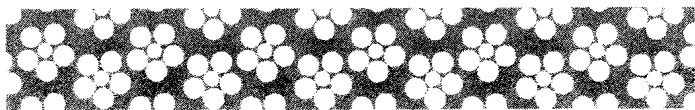
装幀 ● 阿部 元和
装画 ● 塩沢 博明



一章

どんな「状態」なのか
はつきり知りたい日本語

●例えば「あられもない」ってどんな様子なの？



◆その日本語、"なんとなく"使っていませんか？

ふだんの会話のなかでよく聞く言葉なのに、いまひとつ意味がつかめていない言葉は意外とたくさんあるもの。

たとえば、「そのセンスはぞつとしないね」と言われた場合。「ぞつとする」は恐ろしい思いをすることなので、それを「しない」のだからプラスの意味でほめられているような気がするが、じつは決してほめられてはいないのだ。

この章では、このように、意味があいまいなまま使っていたり、微妙に勘違い^{かんちが}したまま使っている「ものの状態」を表す日本語を集めて、説明する。